

刻む会

たより

第35号

2007.12.25

長生炭鉱の「水非常」を歴史に刻む会

代表 山口武信

事務局 宇部市常盤町一の一の九 宇部緑橋教会内

TEL 0836(21)8003

会員募集中

日本国の負の遺産を
日韓日朝友好のための遺産に

会長 山口武信

二〇〇七年も既に十二月、九一年にこの
会が発足して以来、大勢の人々の協力によ
り今日に至っていますが、私たちの目標の
ひとつの追悼碑の建立は今だに土地の目途
もつかず、心焦るばかりです。

「刻む会」の創世期には色々な人々の参
加があり、熱気がありました。しかし十七
年目の今は余りにも多くの歳月を経たため
に、それぞれの事情により多くの人々が会
を去っていきました。今は追悼式をはじめ
各種の活動を支えてくれる若い人々の力が
足りません。何とか初心に戻って若い人々



はもちろんのこと、多くの人々に呼びかけ
てこの長生炭鉱の「水非常」という日本国
の負の遺産を、日韓日朝友好のための遺産
に変えていく活動として参加してもらいた
いものです。

今年は二月の追悼式に韓国政府調査委員
や、韓国報道出版関係の人々、その他多く

の人を迎えて、大変賑やかな「追悼
式」になりました。中でも四二年(昭
和十七年)の水非常当時の生存者、
金景鳳(キムギョボン)氏および
ソル道術(ソルドソル)氏のお二人
を高齢にもかかわらずお迎えして、
坑口跡など旧炭鉱の現地を見てい
ただいて、当時の生活状況や水没前
後の様子などを話していただいた
ことは、改めて長生炭鉱の過去を知
る上で大変良い機会となりました。

今年の追悼式は国の内 外からたくさ
んの人々をお迎 えしました。その上通常
三日間の日程が船の都合などで五日間にな
り、多忙な上、例年に比べ多額の出費を要
しました。私たちがこの会を運営していく
ためには、街頭に出での募金活動や催しな
どをして、もっと多くの参加者や協力者を
得て、啓蒙と資金集めをしていかねば、先
細りとなり、会の存続さえも困難になると
思います。

何はともあれ、今年も「刻む会」の皆様
方には大変なお骨折りをいただき、本当に
お疲れさまでした。

お元気で良い年をお迎えください。

なお、この十二月十五日には、下関、北
九州の先生方のフィールドワークが予定さ
れています。(十二月一日)

国際的観点からの改善を

2007「在日朝鮮人歴史・人権週間」(歴史・人権週間)全国集会が3日、山口・宇部全日空ホテルで行われた。実行委員会共同代表である総連中央の高徳羽副議長兼権利福祉委員会委員長、清水澄子・朝鮮女性と連帯する日本婦人連絡会代表、原田章弘・朝鮮人強制連行真相調査団日本人側共同代表をはじめとする関係者と山口県地域振興部国際課の橋口総司課長、山口の同胞と日本市民ら約170人が参加した。集会では、「歴史・人権週間」のテーマに沿って3人が報告し、アピールが採択された。

3つのテーマ



集会には約170人が参加した

今年の「歴史・人権週間」は、1905年条約(乙巳五条約)と強制連行犠牲者の遺骨問題、日本も批准している人種差別撤廃条約から見た在日朝鮮人に対する日本政府の抑圧政策の問題点の3つをテーマとしている。

集会では、朝青山口県本部のメンバーらが出演したオープニングセレモニーに続き、地元実行委員会の山口武信代表と高徳羽副議長があいさつした。

高徳羽副議長は、日本当局は過去の負の歴史を無視したまま、在日朝鮮人への差別と弾圧を繰り返しており、これを是正させるためにも国際的視野から在日朝鮮人の人権を考えていかなければならないと強調した。

集会では、「長生炭鉱水非常を心に刻む会」の島徹史・山口大学名誉教授、洪祥進・朝鮮人強制連行真相調査団朝鮮人側事務局長、前田朗・東京造形大学教授らが報告を行った。

島氏は、長生炭鉱で1942年2月に発生した「水非常」(坑道での水没事故)により、130人ともいわれる強制連行された朝鮮人が犠牲になったことに触れながら、「刻む会」の活動、目的について語った。

洪祥進事務局長は、在日朝鮮人の発生原因と歴史を紐解きながら、北南朝鮮と日本

との歴史認識の溝を生めることの重要性を訴えた。

そのうえで、ドイツでは第2次世界大戦当時の犠牲者の遺骨が発掘され次第、記念碑などを建立し過去に対する真しな反省を表すことで、ヨーロッパで一定の地位を築くことができたと述べながら、日本はまったく正反対の対応をしていると非難した。

前田教授は、朝鮮の人工衛星打ち上げから始まり、ミサイル発射や核実験など、日本では相対化できない傾向が極端だと述べながら、これまで朝鮮関係について沈黙していたNGOなどの活動家たちが、日本の現状の異常さについて発言しだしたことは明るい兆候だと指摘した。

集会では続いて、タラワ島に徴兵された父を亡くした兵庫県商工会の金承鎬会長が証言を行った。

金会長は、「日本の制裁により、朝鮮にいる母ともう2年も会ってない。いじめた側はすぐに忘れるが、いじめられた側は謝罪されるまで絶対に忘れない。両親を含め一族の恨みを晴らすまでは、子や孫に歴史を伝えていく」と語った。

清水澄子氏は、いわゆる「在日朝鮮人問題」が実は日本の問題という認識を持つことが重要だとしながら、「強制は犯罪」という国際常識に沿って歴史を振り返りこの運動を再構築しなければならないと強調した。

追悼集会も

全国集会に先立ち、長生炭鉱近くの集会所で追悼集会が行われた。

総連中央の高徳羽副議長兼権利福祉委員会委員長、総連山口県本部の金讚福委員長、山口県朝鮮人強制連行真相調査団の許鳳兆・朝鮮人側団長と民団役員ら約130人が参加した。

集会後は、長生炭鉱に関するフィールドワークが行われた他、ピーヤに向かって献花も行われた。

一方、4日には全国実行委員会が行われ、今回の集会を開くまでの経緯と経験が紹介され、来年の「歴史・人権週間」のテーマと全国集会開催地などが議論された。(李松鶴記者)

[朝鮮新報 2007.11.9]

2007年「刻む会」の活動紹介

日程	主な活動
2月1日～5日	遺族招聘 追悼式
2月23日(金)	▼事務局会議 追悼式反省会
3月30日(金)	▼事務局会議 追悼式反省会 会計報告 土地取得の件 ピーヤ保存の件 その他
4月27日(金)	▼事務局会議 追悼式会計報告 土地取得に関する件 刻む会たより発行の件 その他
5月11日(金)	日帝強占下強制動員被害者真相究明委員関係者30名 現地研修
6月 1日(金)	▼事務局会議 土地取得の件 募金の取組に関する件 NPO法人化に向け検討する件
6月23日(土)	宇部朝鮮学校中級部の長生炭鉱現地研修
6月29日(金)	▼事務局会議 夏のフィールドワークの取組み 土地取得の件 追悼碑建立募金に関する募金趣意書の検討について
7月	フィールドワーク実施に伴う取組み(チラシ配布・・・公共施設、市民活動センター、記者クラブ、地元小中学校、下関方面)
7月28日(土)	夏のフィールドワーク実施 西光寺・長生海岸 参加者20名
8月 8日(水)	下関より現地研修 参加者12名
9月11～12日	中国新聞社の取材(山口・戸井)
9月14日(金)	▼事務局会議 在日朝鮮人歴史人権週間全国集会についての取組み 夏のフィールドワークの報告と反省 NPO法人化について 出版の件
9月28日(金)	▼事務局会議 全国集会の取組み
10月 3日(水)	「ウリハッキョ」上映会参加
10月 4日(木)	▼事務局会議 全国集会の取組み
10月18日(木)	在日朝鮮人歴史人権週間全国集会案内 県庁記者クラブ 宇部記者クラブ
10月23日(火)	▼事務局会議 全国集会現地実行委員会
11月 2日(金)	全国集会事前打合せ 浜中集会所 各関係団体
11月3～4日	在日朝鮮人歴史人権週間全国集会(山口、宇部)
12月15日(土)	福岡市教職員組合養護教諭部会 35名 現地研修(西光寺・長生海岸)
12月21日(金)	▼事務局会議 来年の追悼式について

草地大作さん(防府教会牧師)

7月最後の土曜日(28日)、蝉時雨がなりやまない西光寺に集合して、長生炭鉱水没事故のフィールドワークに参加しました。

子供も神妙な顔をして犠牲者たちの位牌を並べました。一人ひとりの名前が刻まれる位牌が、生きていた証しです。しかし、その人たちは今もなお、引き上げられることもなく、西岐波の海に沈んだまま。183名の犠牲者のうち133名は朝鮮半島から徴用された人たちだったと聞きました。故郷を思いつつ朝から晩まで石炭を掘り続け、結局故郷に帰ることもできずに、海に沈んでしまった人たちの無念は、いかばかりだったでしょうか。

西光寺での学習会を終えて、ピーヤの見える海岸に赴きました。ピーヤとは、炭鉱内部に空気を送り込むための喚気口です。水没事故から65年以上が経過する今日でも、海の上にぽっかりと浮かんでいます。私たちはき

れいな海岸に不釣り合いな喚気口が長生炭鉱の名残であることを知っています。あの喚気口につながっていた炭鉱内に、今もなお多数の人たちの亡骸が置き去りにされていることも。しかし、何も知らない地元の若者たちは、その海岸で海水浴を楽しんでいました。受け継がれなければならない歴史が宙に浮いているようで、とても胸の痛む思いでした。

戦争のために徴用され、毎日15時間以上も暗い坑内で重労働を課せられた人たちは、その若者たちと同じ年代でした。65年前の出来事だからもう関係がないのでしょうか。そんなことは絶対にありません。歴史は、世代を超えて受け継がれていかなければなりません。そのためにも、フィールドワークは何年でも継続されるべきです。慰霊の花を海に供えつつ、これからもフィールドワークに、また慰霊の会に参加することを心に誓って、家路につきました。



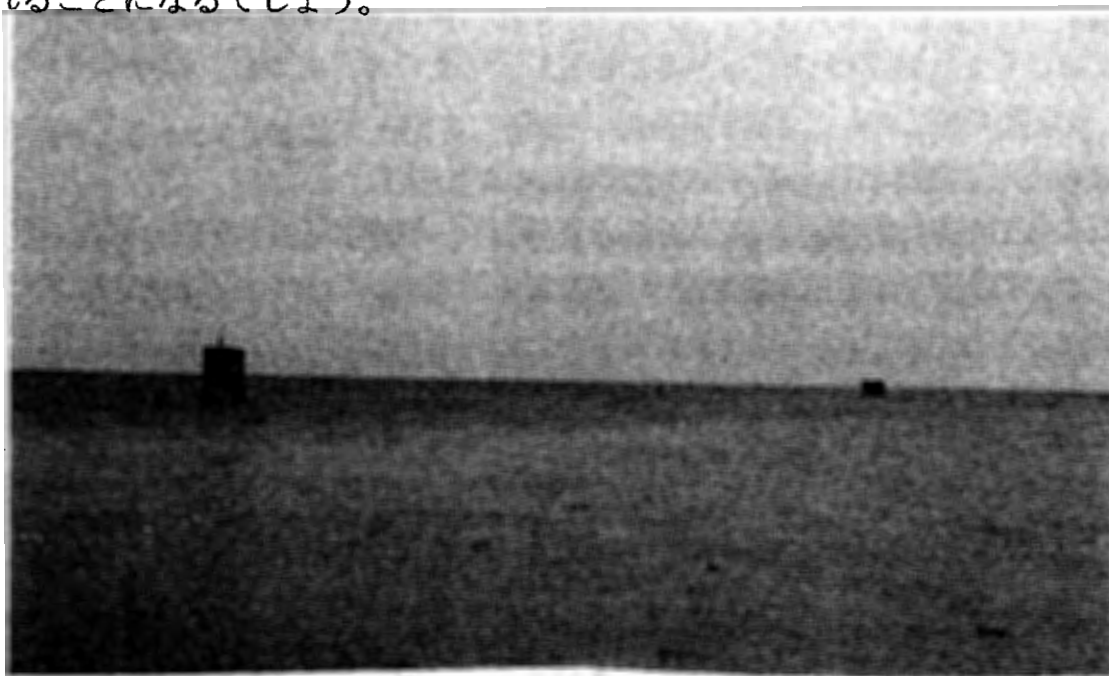
2008年 第17回長生炭鉱の“水非常”追悼式のご案内

別記（4ページ）事務局報告にもありますように、12月「刻む会」例会において、来年もこれまで通り韓国から遺族会の方々（10名前後）を招待して、第17回目の“水非常”（水没事故）犠牲者追悼式を行なうことが決まりました。

日程は2月1日（金）朝、遺族ご一行が下関港に到着、山口県庁訪問（午後宇部市訪問）。

2月2日（土）午後1:30宇部市床波の現地海岸で追悼式をおこなう、という予定です。

例年は遺族の方々の日本滞在は3日間、今回も2月3日（日）の夕刻の船（関釜フェリー）で帰国されることになるでしょう。



募金のお願い

韓国から遺族の方々を招くために（旅費および滞在費のために）毎年皆様のカンパをお願いしております。別紙（募金のお願い）にくわしく書かせていただきました。どうぞ、個人でも、団体でも、いくらでも結構ですので、お寄せくださいますように。また身近な方々にも呼びかけてくださり、この活動の賛同者、協力者の輪が広がるようご援助をお願いいたします。

募金期間 2007年12月～2008年2月（目標額 100万円）

送金先 長生炭鉱の“水非常”を歴史に刻む会

事務局 山口県宇部市常盤町1丁目1-9

郵便振替 01590-7-32405（名義）「長生炭鉱の水非常を歴史に刻む会」

ホームページ（しばらく中断してご迷惑をかけています。まもなく再開します。

それまでも上記名義で検索してくだされば情報がえられます。）